

70年 サザエさんをさがして

イメージで大量の記憶可能に

Date	Event
1210	アリの体重を量った
1960	城がタオルで建てられた
1375	かぼちゃから口紅がつくられた
1840	雪が熱帯雨林に降った
1683	ウナギが発電所で働いた
1286	コンサートが市役所で開催された
1914	安全ベルトに目覚まし時計の機能がついた
2032	注射器の中身が豆乳だった
1344	ゲーマー達がゲームの大会を主催した
1373	ポーカーのカードがパンからつくられた
1223	シェフがキッチンで野球をした
1585	テニスが人気スポーツになった
1932	科学者がキャンパスを爆破した
1869	シャッターをドアに取り付けた

Date	Event
	ルームランナーに水撒きの機能がついた
	ラクダがジーンズをはいた
	囚人が同房者から毒を盛られた
	弁護士が掘削機を運転した
	宝くじの賞金が10億を超えた
	マッチが水につかった
	姉がワインで顔を洗った
	シェフがキッチンで野球をした
	兄がお寺で野宿をした
	リスが木の实を食べた
	魚が近眼になった
	トナカイがサンタを見捨てて逃げた
	スーツが初めてクロコダイル皮でつくられた
	警官が自宅で気絶した
	天使がスターバックスでケーキをつくった

漫画で言うように、丸暗記は勉強の王道のひとつだろう。ただ、そのためにはどれだけの時間と労力がかかるのか。掲載作から約60年。何か画期的な「記憶術」でも生み出されてはいないかと探していて、記憶の達人が頼る「メモリースポーツ」という競技を知った。限られた時間で、「顔写真と姓名」のランダムな組み合わせを記憶したり、「0」と「1」だけの何百桁もの並びを覚えたり、の10種目で結果を競う。日本メモリースポーツ協会 (<http://www.jmsc.jp/or>) の代表で、日本チャンピオンにもなった青木健さん(29)によれば、日本の競技人口はまだ200〜300人程度。中国は盛んで、国内予選だけで10万人以上が競うという。

左の写真は、10種目のひとつで実際に世界選手権に出た「架空年表」問題用紙と解答用紙の一部を上下に並べたもの(使用言語は選べる)。上の「1210」アリの体重を量った、「1960」城がタオルで建てられた「が記憶すべき年と出来事である。実際には1000年から2009年まで、ランダムな年と出来事が158個ずらりと並ぶ。それを5分で記憶し、下の解答用紙の空欄に年を15分で書き

込んでいく。1個間違えると0・5点減点。と聞いて、たった5分ですごしたこんな支離滅裂な、年と出来事のセットをいくつも記憶できるのか、と思った。青木さんは「自己ベストは46個。5分で50個くらい覚える」という。つまり6秒にひとつ記憶するわけで、神業に思える。

「確立されたコツがあって、事前練習をします」事前練習で、「00〜99」までの数字に対応するキーワードを100個、頭にたたき込む。その際は、旧式携帯電話(ガラケー)の文字盤で「1」が「あ」、「2」が「か」に対応するのを利用し、たとえば「10から19」までは「あ行」から始まる言葉で覚える。青木さんの方法では「21」は「か行」で「貝殻」、「10」は「あ行」で「泡」。すぐ思い浮かぶように徹底的に反復練習するのだ。そして本番。問題で「1210」アリの体重を量った「が出る。このとき、下3桁の「210」を「21」と「10」に分解し、あらかじめ記憶していた「21」貝殻」と「10」泡」に、問題文の「アリ」を加え、三つのお話をつくり、映像として記

憶するという。「たとえば貝殻から泡が噴きだして、アリの捕まえている」といった映像にして、5分の間に次々この方法で記憶していきます」解答時間は15分。「アリの体重を量った」など158の出来事の年が問われる。「アリ」につけた「貝殻」「泡」の三つの映像を思い出せば、事前練習で覚えた「21」「10」が思い出せ、10の位が重なるので下3桁の「210」が判明。「1210」と解答できるわけだ。

やや複雑だが、大量のデータを高速で記憶する方法としてはうなずける。では普通の暗記にも応用できるのか。青木さんは「一般化できます。自分は記憶力のいい方ではないが、大学2年でやりだしてから、脳の体力がつくのか、暗記系は得意になった。大学の試験は簡単。1日100、200個の単語なら楽に覚えられ、韓国語はほぼ3カ月でマスターしました」。

もっとも、そこまで到達するのが大変だ。出版社の営業職の青木さんが「仕事以外はほとんど練習。大会が終わるとけっそりします」。……楽に記憶できる術などやはりないのだ。(中略 鉄郎)

記憶術



縮刷版から 読者の苦情を調査

漫画と同じ日の東京版にあった「もの申す」というコラムに、「賞金送らぬニッポン放送」という何やら不穏な見出しががついていた。「もの申す」のは読者。つまり、寄せられた読者の苦情などを基に記者が調べ、その結果をレポートするという欄である。投書の主は、北多摩郡(当時)の長く病床



にある読者で、ニッポン放送の「今週のチャンピオン」「スピード・クイズ」などに計5回採用されたのに、賞金を一度も送ってこない、という訴え。「賞金を業代の足しに」と考えており、切実だという。当欄の連絡で、同放送が調べたところ、経理部が最初の採用分の賞金500円を送ったのだが、「住所に該当者なし」で戻ってきてしまった。投稿がペンネームだったせいだ。その後、抗議の手紙が届いたので、もう一度賞金を送るための社内手続きをしたが、時間が

かかっていたということらしい。行き違いとも言えるが、「社内手続きをとるだけでなく、読者に何か回答をすべきだった」という結論は肝に銘ずべし、だった。サザエさんのベスト版『よりぬきサザエさん』の全13巻が好評発売中です(税込み各1080円)。ご注文は書店、ASAまで。詳細は <http://publications.asahi.com/yorinuki/>。